

大牟田市立白川小学校

1 本校のESDの特徴

本校は大牟田市のほぼ中央部に位置しており、学校のすぐ近くを国道が通り、大型商業施設やマンションが建ち並び、周囲には住宅が密集している。自然環境にふれ合う機会は少ないが、学校には、市内で一番広い運動場があり、樹木がたくさんある。さらに、地域には、白川校区に長く住み、住みよい町づくりに取り組む人が多い。また、令和2年度に大牟田市は豪雨災害に見舞われ、白川校区もたくさんの方が被害に遭った。そこで、安心して住み続けられる校区を目指して、減災・防災について幅広く学び、子どもが予測不可能な自然災害に備えて適切な判断と行動を行えるようにするための基礎を構築することを目的とし、昨年度よりその実践に取り組んでいる。そして、新型コロナウイルス感染の影響を見ながら、一旦ストップした地域の方々との交流も少しずつ再開してきた。

そこで、地域の特色を生かして、「住みよい町づくり」をテーマに、SDGs 3「すべての人に健康と福祉を」、11「住み続けられるまちづくりを」に関わる課題を主に取り上げ、低学年では「生活科」で、3～6年では「総合的な学習の時間」において、次のような点に配慮しながら学習を進めている。

- 〈生活科〉 → 地域の人やもの、自然とのつながりを大切にする。
- 〈総合的な学習の時間〉 → 「環境」「福祉」「減災・防災」という視点から、校区のよさや問題点を見つけ主体的に活動する単元を設定し、「住みよい町づくり」につながるよう指導していく。

〈めざす子どもの姿〉

- 自分と他人を大切にすること（よい子）
- 進んで運動し、最後まであきらめない子（つよい子）
- 夢を持って意欲的に学び、確かな学力を身に付けた子（かしこい子）

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

テーマ：「住みよい町づくり」

学 年	内 容	教 科	時 期
1 年	「花いっぱい白川」【SDG15】	生活科	5～12月(20時間)
2 年	「もっと行きたいな町たんけん」【SDG11】	生活科	10～12月(19時間)
3 年	「白川校区のじまん隊」【SDG11】	総合的な学習の時間	5～7月(24時間)
	「伝え合う心」【SDG3】	総合的な学習の時間	10～12月(15時間)
4 年	「ゴミ減量大作戦ⅠⅡ」【SDG11・12】	総合的な学習の時間	4～2月(31時間)
	「減災・防災教育」【SDG11】	総合的な学習の時間	1～2月(10時間)
5 年	「白川の緑を守ろう！」【環境・エネルギー】	総合的な学習の時間	4～1月(25時間)
	「減災・防災教育」【SDG11】	総合的な学習の時間	10～1月(10時間)
6 年	「ジュニア民生委員・児童委員として、将来の大牟田を考え、自分にできることをしよう」【SDG3・11】	総合的な学習の時間	9～12月(15時間)
全学年	「ペットボトルキャップ色分け」「落ち葉拾い」(ボランティア) 【SDG2・15】	生活・総合 課外	9・1月(2時間) 通年

3 特徴的な活動事例の紹介

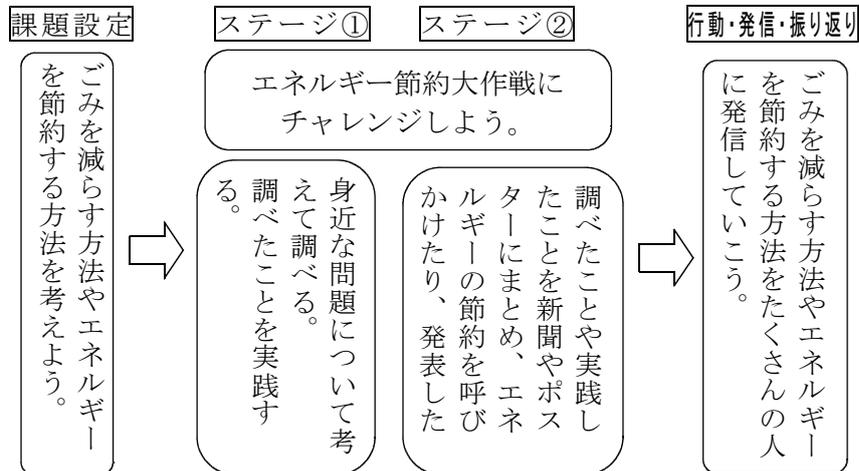
< 4年生 総合的な学習の時間 単元名「ゴミ減量、エネルギー減量大作戦ⅠⅡ」
31時間(5月～12月) >



(1) 目標

- 身近な環境問題に関心を持ち、自分から進んで資料を集めたり、エネルギーを大切にしていって活動を通して、生活を見直し、自分たちにできることはないかを考え白川や地球のためにできることをやってみようとする意欲を持つことができる。
- ゴミやエネルギーを調べることで気付いた問題やその解決方法、エネルギーの働きについて、調べたことや考えたことをリーフレットや新聞、発表会等で伝える。

(2) 実践の展開



【4年 ゴミ減量，エネルギー減量大作戦 単元の流れ】



【ゴミ問題新聞】
課題から自分たちにできることをまとめた。

(3) 実践の成果と課題

○実践の成果

- ・ 単元の最初に大牟田市の環境業務課の皆さんにゴミの分別や処理等についてのお話をいただいたことで興味・関心を高めることができた。
- ・ 今年度は、ゴミ処理施設等の社会科見学ができなかったが、社会科学習と関連させてタブレット端末を使って学習を進めたことで実際の映像を取り入れたプレゼン活動も行うことができ、アウトプットの技能も高まった。
- ・ ゴミ減量についての学習から発展し、着なくなった服や食品ロス、マイクロプラスチック等、まわりの様々な問題に目を向けて、「自分達にできることは何か」を追求する主体的な学習を進めることができた。
- ・ ユネスコスクール記念集会では、これまでに調べて新聞やリーフレット等にまとめたものを全校児童に発信することができた。

○実践の課題

学習したことを、校内で発信した後、みんなで実践できるように児童集会等を活用する等、呼びかけが必要だった。また、地域や保護者への発信も不十分だった。今後、コロナ禍のように制限された中でも発信の知恵を出し合い、SDG12「つくる責任つかう責任」を意識できるよう地域や保護者を巻き込んで実践していく必要がある。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ 「住みよい町づくり」をテーマにESDを実践することができた。学年の掲示物や学期末の発表により、どの学年も見通しを持って活動することができ、今年は、コロナ禍でいろいろと制限のある中、できることを最大限実践することができた。
- ・ 学習を進める上で、地域の方々やGTのご協力が児童の高い追究意欲につながった。

○課題

- ・ 地域との連携をさらに深め、事前の打ち合わせや事後の話し合いを密にし、さらに地域の活動を活発にする。
- ・ 学年間の縦のつながりの見直しと中学校とのつながりを意識する必要がある。